

# 自然と共生するまち

## 自然環境

本市の市域では、その地形の多様性を反映し、環境省が指定する特定植物群落に湊のケヤキ・シロダモ林、金華山島の植物群落、追波川の河辺植生などが指定されています。特に、名振沖の八景島は、太平洋沿岸北部におけるタブノキなどの暖地性植物群落として国の天然記念物の指定を受けています。

また、環境省及び宮城県のレッドデータリストに掲げられている絶滅危惧種も多く生息しており、翁倉山のイヌワシの繁殖地は国の天然記念物に、また、大指沖の双子島はウミネコ等の繁殖地として県の天然記念物に指定されているほか、金華山はニホンジカの生息地として全国的にも有名です。

このように、本市は豊かな自然に恵まれています。しかし、一方で自然環境を保全する上での多くの問題を抱えているのが現状です。

まず、平野では市街地の拡大等により農地や屋敷林などが縮小し、カエルなど環境の変化に弱い生物が少なくなってきました。

また、海岸部などで松くい虫によるマツへの被害が続いているほか、市内各所ではニホンジカの数が増加し、食害により森林の林床が荒廃し、また耕作もできない状態となっており、被害の拡大が懸念されています。

加えて、東日本大震災後の復興・復旧事業に伴う区画整備等では、周辺の自然環境への配慮が求められています。

失われた自然を回復することは大変難しく、また、時間がかかるものです。これらの問題を踏まえ、自然環境に配慮した復興・復旧事業、そして自然環境の保全を進めていく必要があります。

**→資料編72～74ページ参照**

### ●石巻市の動植物

項目	生息・生育種数	重要な種
哺乳類	37種	4種
鳥類	302種	66種
爬虫類	11種	なし
両生類	15種	6種
昆虫類	2,364種	119種
魚類	373種	9種
植物	1,689種	174種

※ 動植物の種数については、現石巻市環境基本計画の策定の際、各種文献等による調査の結果、その生息等が記載されていた種の数であって、表中に記載されている種数が市内で継続的に生息・生育しているとは限りません。

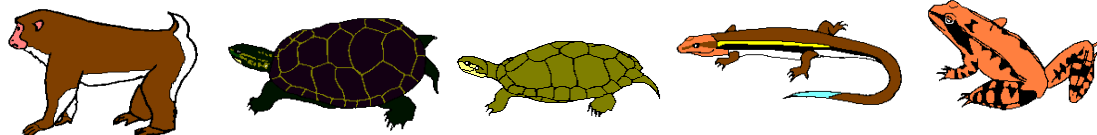
### 石巻市の主な希少植物群落

単一群落	群落名	場所	ランク
	ヨシ群落	追波川(北上・河北)	1 要注意
	タブノキ群落	田代島(田代)	2 破壊危惧
	タブノキ群落	網地島(牡鹿)	2 破壊危惧
	タブノキ群落	岸山王島(牡鹿)	2 破壊危惧
	タブノキ群落	桂島	1 要注意
	クロマツ群落	神割崎(北上)	2 破壊危惧
	イヌシデ群落	尾崎神社(渡波)	3 壊滅危惧
	イヌシデ群落	湯殿神社(清水)	2 破壊危惧
	モミ・イヌブナ群落	牧山(湊)	1 要注意
	タブノキ群落	弁天島(小竹浜)	3 壊滅危惧
	シバ群落	籠峰山(大瓜)	3 壊滅危惧
	シバ群落	旭山(河南)	3 壊滅危惧
	アカマツ群落	清崎(牡鹿)	4 壊滅状態
	アカマツ群落	翁倉山	3 壊滅危惧

(『宮城県レッドリスト』 2013 版)

### 石巻市域に生息する注目すべき動物

哺乳類－ニホンザル・ニホンジカ・ヤマコウモリ・ヒナコウモリ  
 爬虫類－クサガメ・イシガメ・ニホントカゲ・シロマダラ  
 両生類－ハコネサンショウウオ・トウホクサンショウウオ・タゴガエル



### ●石巻市域で確認された重要猛禽類(10種類)

種類	種の保存法	レッドデータリスト
ミサゴ		準絶滅危惧
ハチクマ		準絶滅危惧
オジロワシ	○	絶滅危惧Ⅱ類
オオワシ	○	絶滅危惧Ⅱ類
オオタカ	○	準絶滅危惧
ハイタカ		準絶滅危惧
クマタカ	○	絶滅危惧ⅠB類
イヌワシ	○	絶滅危惧ⅠB類
チュウヒ		絶滅危惧ⅠB類
ハヤブサ	○	絶滅危惧Ⅱ類

(『レッドデータリスト』2012年8月 環境省)



### 石巻市域に生息する魚類の主なレッドデータリスト該当種

エドハゼ(淡・海水魚)・・・国絶滅危惧Ⅱ類、県絶滅危惧Ⅱ類  
 チクゼンハゼ(淡・海水魚)・・・国絶滅危惧Ⅱ類、県絶滅危惧Ⅱ類  
 タナゴ(淡水魚)・・・国絶滅危惧ⅠB類、県絶滅危惧Ⅰ類  
 シロウオ(淡・海水魚)・・・国絶滅危惧Ⅱ類、県絶滅危惧Ⅱ類

(国…2013年2月 環境省 県…2013年 宮城県)

## 1 「自然環境確認調査」について

「自然環境確認調査」は、本市の多様で豊かな自然と共生していくため、開発等により変化していく地域の自然環境を正確に把握することを目的とした事業であり、石巻市環境基本計画のリーディング・プロジェクトの一つとして平成19年度から実施しています。平成26年度は、本市の山地と河川等の水辺を調査しました。

## 2 調査概要

### (1)調査地の選定

平成26年度の各地域の調査地は次のとおりです。

- ① 山地（旭山、トヤケ森山、籠峰山、上品山、硯上山、京ヶ森）
- ② 水辺（皿貝川、大峰川、真野川、古川、青木川、矢本用水路、赤井堀）

### (2)調査方法

調査は、1か所2、3時間で調査可能なコースを設定し、コースに沿って歩きながら観察を行い、現地調査の記録と植生調査票の記録に基づいて植物目録を作成します。絶滅危惧種等特記すべき種については生育状況その他について記録します。

調査に当たっては、自然林の優占種となる高木樹種、常緑樹種、レッドデータブック掲載種（絶滅危惧種など）、開花・結実しているものに留意して記録します。

群落については、その群落の主な構成種を階層別に記録します。

### (3)調査期間

平成26年5月～10月

## 3 調査結果

### ●山地で見られた主な草原群落

群落名	調査場所
シバ群落 シバ・ヒメヤブラン群落 シバ・シバスゲ群落 シバ・ススキ群落	旭山、トヤケ森山、籠峰山 硯上山、京ヶ森
ススキ群落 ススキ・メガルガヤ群落 ススキ・トタシバ群落	旭山、トヤケ森山、籠峰山 上品山、硯上山、京ヶ森
チガヤ群落	旭山、トヤケ森山
オオアブラススキ群落	旭山



シバ・ススキ群落(籠峰山)

●水辺で見られた主な水草

種名	調査地
ヒシ	皿貝川、真野川、青木川、赤井堀
トチカガミ	皿貝川
クロモ	皿貝川
アオウキクサ	皿貝川
コウガイモ	皿貝川、真野川、古川
セキシヨウモ	大峯川
ホソバミズヒキモ	皿貝川、真野川、青木川
エゾヤナギモ	真野川
エビモ	大峯川、古川、青木川
ミズアオイ	皿貝川
ミクリ	真野川、矢本用水路
マツモ	皿貝川、真野川
ホザキフサモ	皿貝川、真野川、古川、青木川、赤井堀
コウボネ	真野川



ヒシ



ウキクサ・ヒシ・トチカガミ

## 都市環境

私たちの家のまわりや街の中には、木や草花、田畑、川や堀などの身近な自然があり、そこにはたくさんの生き物がすんでいます。これらの身近な自然は、私たちの日常生活に潤いや安らぎといった心の豊かさをもたらしてくれます。

しかし、宅地開発や道路整備などの都市化が進んでくると、田畑などが少なくなり、また、私たちが台所や風呂から流す生活雑排水や農薬などが原因で、川や堀が汚れ、生き物が少なくなるなど、身近に自然と触れあえる場が減少してきています。

東日本大震災後の復興・復旧事業についても、緑化に配慮をしながら進めることが必要です。

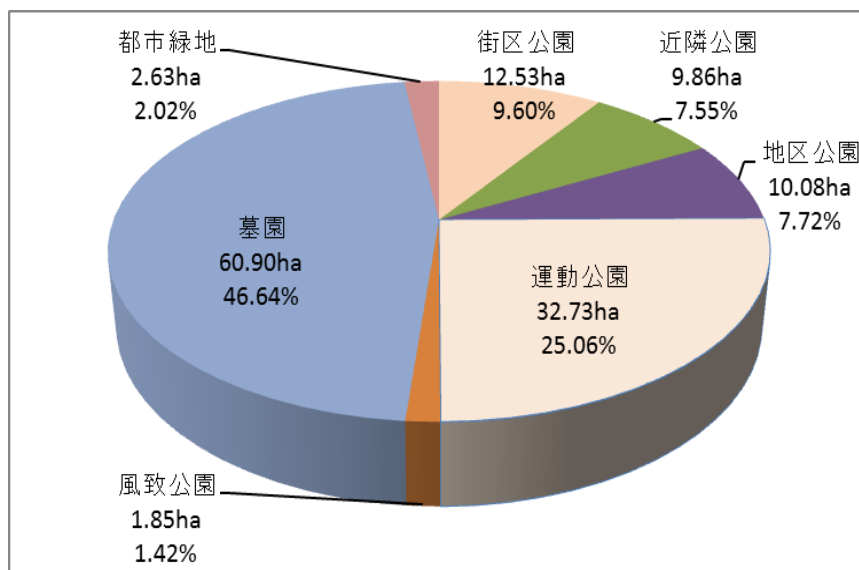
### ■都市公園総面積

本市における平成26年度末現在の公園・緑地の整備状況は83か所であり、総面積が130.59ヘクタールとなっており、これを市民1人当たりには換算すると約8.7平方メートルとなっています。

※仮設住宅のある公園19か所の仮設住宅が占める面積を除けば、総面積は128.02ヘクタールに、市民一人当たりでは約8.6平方メートルとなります。

→資料編80ページ参照

### ●公園の区分ごとの面積と割合



牧山のイヌブナ（牧山市民の森）



## 歴史的・ 文化的環境

本市には、古くから伝えられてきた名勝・齋藤氏庭園や重要無形民俗文化財・雄勝法印神楽、天然記念物・イヌワシの繁殖地などの有形・無形の貴重な文化遺産が数多く残されており、80件（国指定9・国登録1・県指定13・市指定57）が、文化財に指定・登録され、それらの保護保存が図られています。

本市には、これらのほかにも社寺や北北上運河などの歴史的・文化的遺産が多く分布し、今も昔の面影を残しています。

こうした地域に伝承された有形・無形の歴史的・文化的遺産は、市民の心のよりどころであり、郷土に対する慈しみを深める貴重な財産です。

こうしたことから、自然環境や歴史的雰囲気のある街並みなど周辺の環境を含めた歴史的・文化的資源の適切な保全と活用が求められています。



→資料編81～84ページ参照

石井閘門（国重要文化財）

石井閘門は、明治13（1880）年に完成し、現在まで130年余り供用されている施設で、明治政府が東北地方開発の拠点として建設を進めた野蒜築港事業の代表的遺構です。日本最古のレンガ造り西洋式閘門で、可動ゲートを持つ閘門としても日本最古のものです。

ゲートは、もとは木製で昭和41（1966）年に鋼製に更新されたものですが、閘門本体は建造当時のまま残されており、「近代化遺産」のひとつとして北上川、北上運河のシンボルとして保存されており、貴重な近代土木遺産として平成14（2002）年5月23日、国の重要文化財に指定されました。

### 石井閘門の歴史

明治 8年 8月	東北六県の県令が東北開発の意見書を大久保利通内務卿に提出
明治 9年 6月	大久保（内務卿）、石井省一郎（内務省土木局長）ら野蒜視察 ※当時の土木局長「石井省一郎」の名から石井閘門とされた。
明治 9年 9月	大久保卿の命によりファン・ドールン（オランダ人）が現地視察
明治10年 2月	北上川の舟運と野蒜港との連携を図るため運河計画がつけられる。
明治11年 6月	北上運河着工
明治11年10月	石井閘門の起工
明治13年 7月	石井閘門完成